

9月7日(木)～10月6日(金) 満月セレクト

— 今回のセレクトアーティストご紹介 —

Music Selector : ピーター・バラカン



ぼくがキュレーターを務めるフェスティバル、Live Magicは今年で4回目を迎え、少しずつ定着してきたという実感があります。開催は10月21日、22日、場所は恵比寿ガーデン・プレイスのガーデン・ホールとガーデン・ルームです。毎年のように他ではなかなか見られない出演者が多数いますがここで何組か特集します。

今回のセレクトCD

1.



Soulive / Rubber Soulive (Royal Family / PCD93322)

ニューヨークを拠点とするこの3人組はオルガン、ギター、ドラムズで主にインストルメンタルの音楽を得意とするグループです。ジャンルの言うところちょっとジャズ寄りのファンク、ジャム・バンドのシーンからも尊敬の目で見られています。このアルバムではビートルズの曲ばかりを彼ら独自のスタイルで取り上げていますが、Live Magicでもこの中の曲を中心に演奏してくれます。

2.



Omar Sosa & Seckou Keita / Transparent Water (Ota / OTA1031)

キューバ生まれのジャズ・ピアニスト(現在はスペイン在住)オマール・ソーサは自分がやっている音楽のルーツがアフリカにあることを強く意識していて、アフリカのミュージシャンとの共演が多いですが、今回の来日はこのアルバムにも参加しているセネガルのコラ奏者セクー・ケイタ、そしてヴェネズエラの打楽器奏者グスタヴォ・オヴァイエス。静かな刺激に溢れたとても品のある作品です。

3.



The Steve McQueens / Seamonster (P-Vine / PCD93911)

ややジャズの味わいもある洗練された「ネオ・ソウル」は90年代から続いています。その道でよく知られたインゴニートのブレイクがプロデュースしたシンガポール出身のグループ、ザ・スティーヴ・マクウィーンズはなかなかのもの。コリー・ペイリー・レイ辺りの少し気だるい雰囲気を感じ起こさせる女性のヴォーカリスト、ジニー・ブループは要注目。

4.



Playing For Change / Songs Around The World (Hear Music / 0888072311305)

世界中のストリート・ミュージシャンをヴァーチャルに共演させた音と映像のこのプロジェクトは、日本では大和証券のTVコマーシャルで知られています。途上国の貧しい子供たちのために音楽教育を与える施設を造るために利益の一部が利用されています。10人編成のツアー・バンドまででき、国際的な顔ぶれで名曲をゴキゲンに演奏してくれます。

5.



濱口祐自 / Going Home (Columbia / COCB54179)

Live Magicで、ただ一人皆勤賞の濱口祐自。長年と歌山県南部の那智勝浦で地道にアコースティック・ギターの活動を続けてきた彼は、フォークやブルースの他にスウィング・ジャズもエリック・サティの曲なども、様々なスタイルを見事にこなします。ライブでの独特の語りもとても楽しいので、アルバムを気に入った方はぜひ目の前で聞いていただきたいです。